（事例）防災道の駅「みやま」 コンテナトイレ

福岡県 Fukuoka Prefecture

資料１－２

災害時のトイレ環境を改善するために、令和8年3月、道の駅「みやま」にコンテナトイレを設置しました。



道の駅「みやま」の公衆トイレとして活用

平時

災害時

避難所や災害活動の拠点に運搬し、防災トイレとして活用

コンテナトイレの特徴

- ◆ 太陽光パネルと蓄電池を備え、必要な電力を賄うことができます。
- ◆ 微生物分解と膜ろ過によりし尿を処理し、洗浄水として循環させるため、上下水道に接続せずに約4,000回使用できます。



コンテナトイレ　内部イメージ

～令和8年熊本地震被災地支援～





道の駅「みやま」

コンテナトイレ積込状況



運搬状況



氷川町ボランティアセンター到着

据付状況

氷川町からの要請を受けて、令和8年8月1日に、道の駅「みやま」を出発しました。

氷川町ボランティアセンターでは、9月14日までの間に、**約3,600回**使用されました



利用者からは
「**非常に助かった**」
「**においが気にならなかった**」
「**快適に利用できた**」
等のお言葉をいただきました。